

第2日目 2020年9月13日（日）

午前の部 10:00～12:30

テーマセッション（2）

ダイアド・データによる家族研究の可能性

オーガナイザー・司会：田中慶子（慶應義塾大学）

討論者：吉田崇（静岡大学）

【企画趣旨】

家族研究の重要な関心事の1つは、親子・夫婦・きょうだいなど、世代間・世代内の二者（ダイアド）関係における相互作用のありようを明らかにすることにある。このため、欧米の家族研究では、ダイアド・データ（ペアデータ）の重要性が早くから指摘され、1980年代からデータの収集や分析手法に関する研究を蓄積されてきた。近年ではパネルデータを組み合わせることにより、ダイアド内における個々人の発達過程に加え、時間軸を視野に入れた相互影響関係を捉える試みもなされている。日本でもダイアド・データを活用した研究が蓄積され、個人や個々のダイアド関係を越えた「家族」の特性を捉えられる一方で、その問題点（回収率、調査コスト、推定モデルの複雑性など）なども指摘されている。

こうした状況をふまえ、本セッションでは、ダイアド・データを含め、同一家族における複数の構成員から収集されたデータを家族研究に有効活用することを目指して、日本の状況を概観、現在の到達点を確認するとともに、方法論や分析に関して、いくつかの問題提起を行い、今後の家族研究への応用や課題について広く議論を行いたいと考えている。

具体的には、最初にダイアド・データに関する概説を行い、4人の報告者から以下のようなテーマで報告をおこなう。1)質問項目作成に関する課題（佐々木尚之）、2)公的統計データを用いた二次分析によるダイアド・データの長所・短所の検討（斉藤知洋）、3)「夫婦（関係）を分析する」ことについて理論的な考察（鈴木富美子）、4)夫婦関係分析におけるダイアド・データ活用の可能性（西野理子）。

※なお、本セッションは、東京大学社会科学研究所・2018年度～2019年度課題公募型研究「ダイアド・データを用いた家族研究の検討：夫婦、親子、きょうだい関係を中心として」（研究代表：田中慶子・坂口尚文）の研究成果の一部である。